

総領事館便り10月号

★国際交流基金「日本語パートナーズ」第17期の東ジャワ州への派遣

国際交流基金は、インドネシアを含めたアジアの国々の中学・高校などに日本語教師や生徒のパートナーとして活動する「日本語パートナーズ」を派遣し、授業のアシスタントや、日本文化の紹介を行う事業を実施しています。

新型コロナウイルスの影響により、東ジャワ州への派遣は一時見送られていましたが、今年度より派遣が再開され、9月より、13名の日本語パートナーズがスラバヤ市、シドアルジョ県、パスルアン県、グレシック県、モジョクルト県及びモジョクルト市の各高校にて活動を開始しました。派遣期間は来年3月初旬までを予定しています。

9月13日、マジャパヒト・ホテルにて、日本語パートナーズ着任式が開催され、高橋国際交流基金ジャカルタ日本文化センター所長、竹山総領事、市村東ジャワ・ジャパン・クラブ（EJJC）会長、福田スラバヤ日本人学校校長他が出席しました。東ジャワ州における日本語教育推進のため、日本語パートナーズの皆さまのご活躍を期待しています。



★2022年度国費留学生（研究留学生他）渡日前オリエンテーションの開催

9月14日、文部科学省が実施する国費留学制度を通じて、9月に日本へ向けて出発する28名を総領事公邸に招待し、渡日前オリエンテーションを開催しました。



オリエンテーションにおいて、竹山総領事より、東ジャワ州を含むインドネシア各地には、エミル・ダルダック東ジャワ州副知事等、元日本留学生がさまざまな場で活躍している、日本留学経験を通じて、将来日本とインドネシアの架け橋となっていたいただきたい旨伝えました。

★Tunjungan Plaza 6における Toys & Hobbies Week での総領事館 ブース出展

9月21日から25日まで、市内の Tunjungan Plaza 6 にて、Toys & Hobbies Week イベントが開催され、在スラバヤ総領事館からブースを出展し、日本観光や国費留学に関する情報提供を行うとともに、日本玩具の展示を行いました。

最終日の25日には、当館竹山総領事が登壇して挨拶をした他、ゲーム大会、コスプレ大会、Jダンス大会、戦隊ヒーローを真似た変身大会等、日本のポップカルチャーを楽しめるイベントが多く開催されました。当館のブースにおいても浴衣の着付け体験を行い、多くの来場者にお越しいただきました。



スラバヤでの日本ファンの熱気を実感することができる5日間となりました。



★令和4年度前期草の根・人間の安全保障無償資金協力署名式の開催

9月28日、令和4年度前期草の根・人間の安全保障無償資金協力「東ジャワ州トゥバン県におけるイスラム小学校校舎建設計画」及び「東ジャワ州トゥルンアゲン県におけるイスラム小学校校舎建設計画」の贈与契約（G/C）署名式が当館講堂で開催され、当館から竹山総領事と、被供与団体であるアル・ヒクマ・チュンコン・イスラム小学校（トゥバン県）校長及びダルル・ウルム・サンビロビョン・イスラム小学校（トゥルンアゲン県）校長が出席しました。

総領事館便りでもこれまで御紹介してきたとおり、草の根・人間の安全保障無償資金協力は、人間の安全保障の理念を踏まえ、開発途上国における経済社会開発を目的とし、地域住民に直接裨益する、比較的小規模な事業のために必要な資金を供与するものです。

今般、支援に至った2校のイスラム小学校ではいずれも、児童数の増加に対して学校設備が追いついておらず、児童は近隣のモスクや教員の自宅で授業を行う等適切な環境で教育を受けることができない状態にありました。地域の児童に安全かつ適切な学習環境を提供し、もって、同地域の基礎教育の質を向上させることを目的とし、新

校舎の建設と必要な備品整備のため、アル・ヒクマ・チュンコン・イスラム小学校に対し 1,241,880,000 ルピア、ダルル・ウルム・サンビロビョン・イスラム小学校に対し 1,253,600,000 ルピアを供与することとなりました。

署名式では、竹山総領事より、無償資金協力事業の原資は日本の国民が納めた税金であり、それを通じて建設された校舎や教室備品は日本国民から皆さんへの贈り物となるが、ぜひ有効活用するとともに、維持管理に留意し末永く活用して欲しい旨述べました。各被供与団体からは、今般の支援の決定に対し、日本政府に深い感謝の意が述べられました。

署名式を受けて各プロジェクトが本格的に始動します。完成は来年度を予定しています。



(了)